

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 1日

事業所名

あさがおねっと大和田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	0%	利用人数により異なるが 接触が無いよう配慮し	利用人数によりスペースが狭く感じる時があるため、最善の配慮を継続していく
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%	支援員が多い日がある	見守り体制と支援充実のため、引き続き支援員配置をしていく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	20%	40%	トイレに段差はあるが見守りを重視している	段差がある箇所への、見守りをしっかり行う
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	40%	20%		支援員全体で実施できるよう、改善に努める
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート調査を実施し保護者よりご意見を聞き改善点を共有している	安心して利用いただけるよう、引き続きご意見をいただけるよう努める
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	60%	20%	ブログにて取り組みや様子を公開している	ホームページで公表しているが、全家庭への周知が不十分であるため、再度周知方法を検討する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	20%	不十分な為外部評価の機会を増やす	コロナ禍であるが、状況を見ながら外部評価の機会を増やす
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	60%	20%	不十分な為外部研修の機会を増やす	コロナ禍であるが、状況を見ながら外部研修の機会を増やす
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	60%	0%	アセスメントが不十分な点があり改善し...	丁寧に保護者から聞き取りが出来るよう改善していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	20%	40%	検査結果等は保護者より情報提供していただいている	標準化されたアセスメントツールの使用が不十分のため、必要に応じて保護者へ働きかける
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	支援員全体で考えるよう努力している	支援員全体で実施できるよう、改善に努める
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	支援員全体で考えるよう努力している	引き続き支援員全体で考えていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	支援員全体で考えるよう努力している	個々に合った支援が出来ているか、しっかり話し合う
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	40%	0%	集団活動が苦手な子供に対してのアプローチの仕方を改善していく	支援計画を改善し、より良く分かりやすい内容で提示出来るよう改善していく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	40%	40%	長期休暇中など時間が無く不十分な時がある為改善していく	長期期間など時間の確保に難しいことを想定し、短い時間でも確認が出来るよう改善していく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	40%	40%		長期期間など時間の確保に難しいことを想定し、短い時間でも確認が出来るよう改善していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	40%	40%	支援員全体の把握が不十分である為改善していく	支援員全体で把握が出来るよう、それぞれが行った支援の記録を徹底していく
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	40%	20%	見直しの必要性がある子供に対しての話し合う時間を確保し、平日の支援については不十分がある為改善していく	様々な支援員の意見を聞き取り、成長の過程に合った支援を話し合っていく	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	20%	20%		平日は利用時間が短くなるが、活動が固定化しないよう改善していく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40%	20%	基本的には・・・	児童発達支援管理責任者が参画しているが、必要に応じてケース担当者の参画も考えていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	60%	0%	情報共有が遅れてしまう事がある新年度の進級のタイミングなどの共有が難しい・・・学校の連携を重視し	より一層、学校と連携出来るよう努める
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	0%	主治医等との連絡体制が不十分	不十分な点を見極め、必要に応じて主治医に確認をさせてもらう
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	20%	0%	相互の情報共有が不十分な為努力していく	情報共有が難しい場合があるため、協力していただけるよう働きかける
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	0%	卒業した児童がこれまでに1名であり就職先に情報提供する機会がなかった	今後必要があれば、情報を提供し共有できるよう努める
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	0%	助言等受けている	助言を受けられる機会を増やしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	60%	コロナ禍の為見合わせているが落ち着いたら機会を増やしたい	今後は状況を見ながら交流できる機会を増やしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	20%	参加できていない為機会があれば積極的に参加したい	今後は状況を見ながら参画できる機会を増やしていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	80%	0%	送迎時や連絡ノート等で共通理解に努めている	より一層、共通理解が得られるよう努力していく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	20%	積極的には行えていないため改善が必要である	必要に応じてペアレント・トレーニングを行っていく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	40%	0%	十分に時間を確保し伝えていく	説明に対し理解が十分であるか、その都度丁寧に聞き取るようにしていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	0%	相談があった時は必要な助言を行っている	相談があった場合は、迅速に対応していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	20%	コロナ禍の為見合わせているが保護者会を再開していきたい	状況を見ながら、保護者同士の交流(保護者会実施)を前向きに考えていく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	苦情があった際はすみやかに対応している	保護者から苦情等を聞き取った場合は、出来る限り速やかに対応するよう心がけていく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60%	40%	ブログにて活動内容を報告しているが会報の	今後は定期的に会報を配布していくよう改善する
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		鍵付き書庫にて保管している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%		配慮すべき点を支援員全体で話し合い、改善していく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	80%	コロナ禍の為見合わせている	今後の状況を見ながら、地域に開かれた事業所となるよう努める

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	0%	コロナ禍の為見合わせている	今年度より防犯・防災訓練の年間スケジュールを、保護者に対し事前に周知している
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	20%	20%	定期的に防災防犯学習を実施しているが不十分な為改善していく	細かな訓練が不十分なため、改善が必要である
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	20%	機会が少ない為研修を確保していくよう努め	権利擁護研修や虐待防止研修などの機会を確保していく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40%	0%	現在の利用児童に対象者はいないが必要な際に十分な説明し計画に記載する	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60%	20%	医師の指示書ではないが保護者より情報をいただき共有している	情報に変更などないか再確認していき、全支援員へ周知していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		迅速に作成するよう努める